

[ 水 田 作 ]

水田裏作イタリアンの生育相について

立石 昭・陣野久好  
(長崎県総合農林センター)

TATEISHI, A. and JINNO, H.  
Appearance on the Bringing up of Italian Ryegrass  
as a Second Crop in Paddy Field

早期稲、早植稲及び普通期稲跡のイタリアン栽培体系に於ける各作期別によるイタリアンの生育経過を追跡し生育時期別日当り生育量を調査し飼料供給計画の参考資料を供せんとするものである。

試験方法

播種期は早期稲跡9月上旬、早植稲跡10月中旬、普通期稲跡11月中旬、畦巾30cm、a当り播種量0.3kg、区の構成として1～6回刈区を設けた。施肥条件は標肥区と多肥区の2条件とし、多肥区は標肥区の5割増とした。標肥区の施肥量(kg/a)のN.P.Kは早期跡3.15, 0.64, 1.50, 早植跡2.83, 0.64, 1.50, 普通期跡2.94, 0.64, 1.50, としNは追肥重点施用として6回分施とした。各区は28日毎に草丈、茎数、生草重、風乾重等について調査した。

結果並びに考察

日当り生育量は生育のステージと気温並びに施肥条件によつて異なつたが、早期稲跡に於ては年内に稍高く生草の日当り生産量は3.1kg/a 冬季の12月下旬～1月中旬には0.4kg/a、2月中旬～3月中旬の伸長期の初刈回は最大で7.7kg/a、であつた。3月から4月にかけての生育量は各区共概して多く4.9～5.8kg/aの範囲であつた。早植稲跡及び普通期稲跡では生育のステージが進むにつれその生育量は増加するが、特に出穂期頃が著るしかつた。草丈、茎数は刈取回数の相違によつて変化をきたし、刈取回数を増すと草丈は短くなり、又茎数は多くなる傾向がみられた。また、生草重は僅かながらも低下の傾向がみられた。

飼料の供給面については、早期稲跡では年内、又は冬季重点とし普通期稲跡では3～5月供給、早植稲跡では2～5月供給と考えられるが、実用場面に於ては刈取の時期並びに刈取回数の相違によつて収量面には複雑に現れるものと考えられるが、これらの面については尚検討したい。

第1表 早期稲跡の生育経過

項目	月・日		区						合計
	11.25	12.24	1.20	2.17	3.17	4.14			
草丈 (cm)	1 2 3 4 5 6							99 54 51 44 40 37	
生草重 (kg/a)	1 2 3 4 5 6							682 122 159 137 159 536	

(注) 数字は昭38～39年度播の標肥区の平均値、以下同じ

第2表 早植稲跡の生育経過

項目	月・日		区						合計
	12.16	1.13	2.10	3.10	4.7	5.4			
草丈 (cm)	1 2 3 4 5 6							139 67 69 63 65 61	
生草重 (kg/a)	1 2 3 4 5 6							831 202 238 210 231 554	

第3表 普通期稲跡の生育経過

項目	月・日		区						合計
	1.6	2.3	3.3	3.31	4.28	5.27			
草丈 (cm)	1 2 3 4 5 6							169 77 58 58 57 56	
生草重 (kg/a)	1 2 3 4 5 6							567 196 128 143 125 148	